



カケハシ・プロジェクト（米国） 日系米国人青少年招へい（JACL）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

日米次世代間の相互理解と友好関係をさらに深めることを目的として、12月12日から12月18日まで、米国各地から日系米国人市民同盟（Japanese American Citizens League: JACL）が選出した日本にルーツを持つ青少年74名を招へいしました。参加者は東京都、神奈川県、広島県、沖縄県を訪問し、表敬訪問やホームステイ、文化体験、学校交流を通じて自らのルーツを探求し、日本の社会や歴史、文化への理解を深めました。また、その学びや気づきを日系米国人の立場からSNS等を通じて積極的に発信しました。

【参加者】日系米国人青少年（大学生・大学院生・社会人）71名及び引率者3名 合計74名
グループ1：24名、グループ2：25名、グループ3：25名

【訪問地】グループ1：東京都、神奈川県、沖縄県
グループ2、3：東京都、神奈川県、広島県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

12月6日（金曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、
渡航上の注意、感染症対策等
来日までの指定期間 【動画視聴】日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

12月12日（木曜日） 羽田空港より入国
【来日時オリエンテーション】

12月13日（金曜日）～12月16日（月曜日）午前

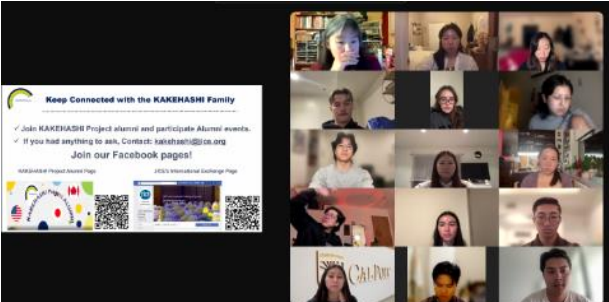
3つのグループに分かれ、グループ1は沖縄県、グループ2は広島県広島市と福山市、グループ3は
広島県広島市と安芸太田町を訪問。地方プログラム終了後、12月16日に東京都へ移動

グループ1：沖縄県 【学校交流】琉球大学
【表敬訪問】宜野湾市長 佐喜眞 淳 氏
【対面式・ホームステイ・歓送会】読谷村
【交流会】「アメリカで沖縄の未来を考える」派遣プログラム既参加者との昼食
【講義・体験】海洋環境学習、ビーチクリーン
【視察】チビチリガマ

グループ 2 : 広島県	【学校交流】 福山大学 【対面式・ホームステイ・歓送会】 福山市 【文化体験】 瞑想体験（神勝寺） 【視察】 広島平和記念資料館
グループ 3 : 広島県	【学校交流】 県立広島大学 【対面式・ホームステイ・歓送会】 安芸太田町 【文化体験】 神楽（堀神楽団） 【視察】 広島平和記念資料館
12 月 16 日（月曜日）	【視察】 明治神宮・原宿
12 月 17 日（火曜日）	【ワークショップ】 報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成） 【視察】 海外移住資料館 【表敬訪問】 内閣総理大臣補佐官 長島 昭久 氏 【表敬訪問】 外務省北米局審議官 熊谷 直樹 氏
12 月 18 日（水曜日）	【報告会】 訪日成果・帰国後の活動計画発表 羽田空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
2024 年 12 月 6 日【来日前オリエンテーション】	2024 年 12 月 6 日【来日前オリエンテーション】 グループ別自己紹介の様子

招へいプログラム

グループ 1（訪問地：沖縄県）

	
2024 年 12 月 13 日【学校交流】琉球大学	2024 年 12 月 13 日【表敬訪問】 宜野湾市長 佐喜眞 淳 氏
	
2024 年 12 月 14 日【ホームステイ】	2024 年 12 月 15 日【講義・体験】 海洋環境学習、ビーチクリーン

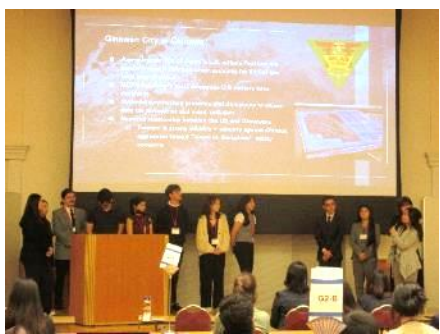
グループ2（訪問地：広島県）

	
2024 年 12 月 13 日【学校交流】福山大学	2024 年 12 月 14 日【ホームステイ】
	
2024 年 12 月 15 日【文化体験】 瞑想体験（神勝寺）	2024 年 12 月 15 日【視察】広島平和記念資料館

グループ3（訪問地：広島県）

	
2024 年 12 月 13 日【学校交流】県立広島大学	2024 年 12 月 14 日【ホームステイ】
	
2024 年 12 月 15 日【ホストファミリー歓送会】	2024 年 12 月 15 日【文化体験】神楽

共通プログラム（東京都）

	
2024 年 12 月 16 日【視察】明治神宮	2024 年 12 月 17 日【視察】海外移住資料館
	
2024 年 12 月 17 日【表敬訪問】 内閣総理大臣補佐官 長島 昭久 氏	2024 年 12 月 17 日【表敬訪問】 外務省北米局審議官 熊谷 直樹 氏
	
2024 年 12 月 18 日【報告会】	2024 年 12 月 18 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学院生（グループ 1）

特に印象に残ったのは沖縄での琉球大学の学生との交流、チビチリガマの視察とホームステイでした。沖縄のアイデンティティや文化、沖縄と日本の両方のルーツを持つ人について沖縄の学生と話し合えたことや、米国の歴史と関連付けて日系米国人のアイデンティティや文化を伝えることができたのは意義深い経験でした。チビチリガマでの視察は、胸が痛むものでしたが、知っておくべき出来事について学ぶことができ、重要な視察となりました。

◆ 大学生（グループ 1）

文化交流で特に印象に残ったのはホームステイ体験でした。沖縄の日常生活を楽しく体験することができ、ホストファミリーのホスピタリティに感銘を受けました。特に、ホストマザーから沖縄と米国の関係についていろいろ教えていただいたことや、踏み込んだ話をするのができたのは、良かったです。

◆ 大学生（グループ 2）

広島平和記念公園と原爆資料館訪問が私にとって最も印象的でした。日本における原爆体験の深い歴史や、核兵器がもたらした被害とその後遺症について、その全てを多くの人に伝えたいという願いが感じられました。

◆ 社会人（グループ 2）

このプログラムで最も印象的だったのは、多様性を体験できたことです。ホームステイでは日本の伝統的な生活様式を、そして東京に戻ってからは都会の喧騒の中で現代的な生活を、それぞれ体験することができました。自分のルーツである国の文化を学び、それにどっぷりと浸かることができ、他の日系人の友人たちと一緒にこうした初めての体験ができたのは、すばらしい経験でした。

◆ 社会人（グループ 3）

ホームステイをすることで、日本の日常生活レベルの問題や、地域社会で起こりうる問題を身をもって理解することができました。例えば、安芸太田では、町のほとんどが高齢者であり、学校の生徒が70人しかいないこと、そのため多くの学生が卒業後に町を出てしまうこと、以前は耕作されていた田畑が今は使われていないことなどについて、ホストファザーが話してくれました。また、同年代の学生たちと一緒に過ごし、他の日系米国人の集まりでは出会うことのなかったような人たちとつながり、今では生涯の友となりました。

◆ 社会人（グループ 3）

学校交流で、日系米国人と日本文化の類似点と相違点について話し合えたのが良かったです。広島地方特有のお土産について学べたことも良かったです。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 学校交流関係者

今回の訪問では、日系の方々が本学の魚介類飼育施設や附属水族館に大変興味を持たれていました。また、日系人の方々が米国で経験されたご苦労について、現代の日本人学生が知る貴重な機会になり、非常に有意義でした。

◆ 学校交流関係者

本学としても学内の国際交流は推進すべきと考えており、このプロジェクトは多いに寄与してくれたと考えています。本学学生は英語を話す機会が少ないことを課題と感じており、その課題を解消する機会になりました。英語母語話者と英語で会話することに慣れていないため、語学力を心配する学生もいたのですが、最終的には積極的に交流する姿が見られたので同世代の国際交流は非常に有益だと感じました。

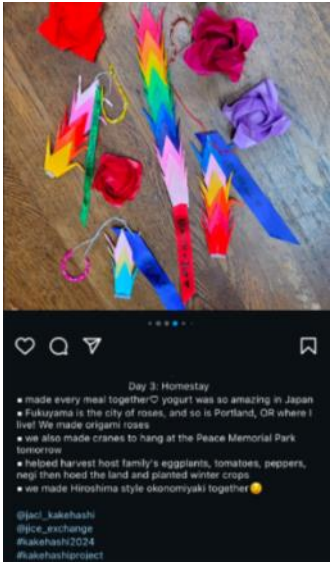
◆ ホストファミリー

受け入れた訪日団 4 人共、とても仲が良く、昔からの知り合いかと思ったら会ったばかりとのことで、そのコミュニケーション力に感心しました。私達も楽しく過ごせました。

◆ ホストファミリー

ヴィーガン、グルテンフリーなど食事制限のある訪日団の受け入れが初めてであったため、食事をおいしく作れるかが一番の心配でした。しかし、初日の夕食時から皆「おいしい、おいしい」と言って完食してくれました。今回の受け入れを通して、少しの工夫があれば何の問題もなく受け入れる事ができると実感しました。これから、自分なりにヴィーガン食やグルテンフリー食について少しずつ勉強したいという思いが芽生えました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2024 年 12 月 13 日 (Instagram) 2 日目 東京から広島へ 大学交流では県立広島大学で日本人学生と会いました。交流を通して、日本の大学生活がどのようなものか、日本人の学生が米国の文化に対して強く関心があることを学びました。また、しまなみ海道の橋は尾道市と今治市をつないでいるということに興味深く学びました。安芸太田町のホストフ	2024 年 12 月 14 日 (Instagram) ホームステイ中は全ての食事を皆で一緒に作りました。日本のヨーグルトはすごくおいしかったです。福山はバラの街です。私が住んでいるオレゴン州ポートランドも同じです！折り紙でバラを作りました。鶴も折ったので、明日、平和記念公園の原爆の像のところへ捧げてきます。ホストファミリーの畑でナスやトマトなどの収穫も手伝いまし

ファミリーと一緒に初めて押し寿司を作りました。	た。(後略)
	 The question I've been asked most in my life, even more than my name, is "Where are you really from?" This past week, I had the opportunity to find out the answer for myself. I thought I knew and I admittedly change my answer frequently depending on who is asking to make them more comfortable, but when the person who is questioning your identity is yourself it's far more complicated. I grew most with being surrounded by 75+ other Japanese Americans for the first time and you begin to realize that. When you can't find the ground you belong on, maybe it's because you are part of the bridge. In Okinawa, I was reminded that these bridges are held together by a keystone at the center of the arch that all of the other stones lean on. As strong and indestructible as a bridge looks, if you remove the keystone then the bridge will easily collapse. I view myself, my tomodachi that I had the honor of sharing this experience with, and all Japanese Americans as being the special
2024 年 12 月 14 日 (Facebook) カケハシ・プログラムのすばらしいスタート！ 日系米国人の若者たちは、大学訪問や地方でのホームステイを通じて、自身のルーツを体験しています。	2024 年 12 月 19 日 (Instagram) 私がこれまでの人生で最も多く聞かれた質問は、「本当の出身はどこ？」というものです。名前を聞かれるよりも頻繁に、です。 先週、その答えを自分自身で確かめる貴重なプログラムに参加しました。 これまでは自分の出身について理解しているつもりでしたが、質問してくる相手によって答えを変えることもありました。聞いてきた相手が安心するだろうと思ったからです。しかし、自分自身にその質問を投げかけたとき、答えは驚くほど複雑でした。さらに、初めて 75 人以上の他の日系米国人と一緒に過ごす経験を通して、新たな気づきを得ました。それは、もし、自分がどこに属しているのか分からないと感じるなら、それは自分が「橋」の一部だからかもしれない、ということです。 沖縄では、石橋がどれほど強そうに見えても、アーチの中央にある「要石」がなければ成り立たないという話を聞きました。この要石に他の石が寄りかかることで、橋全体が支えられているのです。要石が取り除かれると、橋は簡単に崩れてしまいます。この話を通して、私は自分自身と、このプログラムで出会った仲間たち、そして日系米国人全員が、日本と米国をつなぐ「橋」の要石だと感じました。原爆の生存者、強制収容所の生存者、そして戦争の苦難を乗り越えた人々の手によって、慎重に再構築されたこの「橋」の存在はとても特別です。こ

	の橋を支える役割を担うことは、力強さ、多様性、そして思いやりを象徴するとも感じます。
	
2024 年 12 月 16 日（福山まるとと体験推進協議会 Instagram） 2024 年度カケハシ・プロジェクト 2 泊 3 日で米国から訪日団がホームステイ 言葉の壁はコミュニケーションで解決していきます。 一期一会の巡り合わせ、こういった場面にいられることも協議会は嬉しいです	2024 年 12 月 16 日（広島県公立大学法人県立広島大学ホームページ） 【カケハシ・プロジェクト参加者の皆さんが来学されました】 2024 年 12 月 13 日、外務省が行うカケハシ・プロジェクトで来日した日系米国人の青年訪問団と本学学生が交流しました。 訪問団 24 名のうち、2 名の方からファミリールーツについて発表いただいた後、本学の学生から本学の概要と広島県の紹介をそれぞれ発表しました。広島県の紹介発表では、本学学生 8 名がそれぞれ 1 テーマを担当し英語で発表したところ、訪問団員から歓声があがるなど、大変盛り上がったプレゼンテーションとなりました。 ディスカッションの場では現在勉強している専攻を選んだ理由やホリデーの過ごし方、若者が使う英単語など多岐にわたるトピックで意見交換することができました。 本学学生にとって海外の同世代の方々と英語で交流する貴重な機会となりました。



2024 年 12 月 20 日（宜野湾市の Facebook）

【対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」日系米国人青少年招へいプログラム参加者 宜野湾市来訪】

アメリカと日本の友好のカケハシです！

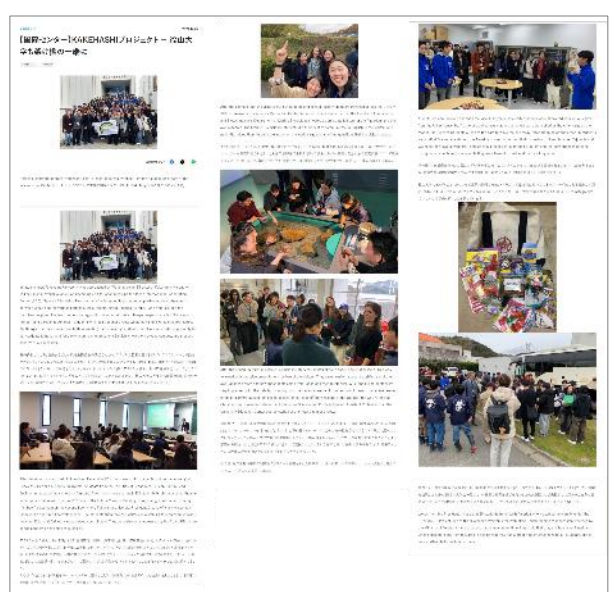
対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」にて来沖している、日系米国人の若者が 12/13（金）宜野湾市役所を訪れました。

カケハシ・プロジェクトは、外務省が推進する北米との交流事業で、全米から選ばれた日系米国人の若者が、沖縄県、広島県を訪問し、交流や視察を通じて日本の文化や社会について理解を深めます。

宜野湾市役所においては、市役所屋上から普天間飛行場の視察を行った後、多目的会議室において、市長表敬及び意見交換会を行いました。

参加者さんは「このような沖縄の文化や歴史を学べる機会をいただけたことに感謝していますので、できる限りのことを学んで帰り、家族にたくさん話したいと思っています」と挨拶しました。

佐喜眞淳市長は「この機会を通じて、米国と日本がさらなる友好関係を築き、皆さんが再び沖縄を訪れる際には、普天間飛行場が返還され、沖縄の人々が夢と希望に満ちた街づくりをしている姿をお見せできたらと思います」と挨拶しました。



2024 年 12 月 23 日（福山大学の HP）

「【国際センター】KAKEHASHI プロジェクトー福山大学も架け橋の一端に」

このプログラムは外務省の実施する「対日理解促進交流プログラム」の中の北米を対象とした「KAKEHASHI プロジェクト」の一環として実施されました。今回は日本にルーツを持つ米国人学生たちが広島県を訪れました。このプロジェクトは、訪問する米国人学生にとって興味深いものであるだけでなく、福山大学の学生たちが数時間の間彼らを受け入れ、英語で交流し、キャンパスを案内し、研究内容を紹介するすばらしい機会になると考えました。（中略）

水族館ツアーの後、海洋生物科学科の学生たちがスナックとチャットセッションを開催。その後、訪問者のうち 2 名が感動的なプレゼンテーションを行いました。それは、自身の日本のルーツや、自分たちの祖先がどのように米国に渡ったのかについてでした。第二次世界大戦後の 1940 年代後半に日本人の子孫であるアメリカ市民が強制収容されたことにより、家族が分断されたり、戦後アメリカ各地に分かれて定住したりしたという詳細な話に、福山大学の学生たちは、日系米国人の苦難の歴史を驚きをもって受け止めざるを得ませんでした。（後略）

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

グループ1（訪問地：東京都、神奈川県、沖縄県）全2グループ発表



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び：

戦争の体験は語りたくない人もおり、記憶の継承が難しいことを学びました。また沖縄は国際色豊かでありながら、食や言葉において独自の文化を持っていること、伝統的な踊りや一部の方言では男女の使い分けがあることも学びました。

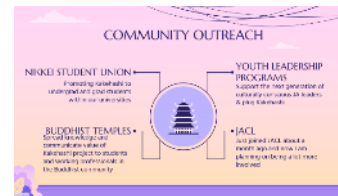
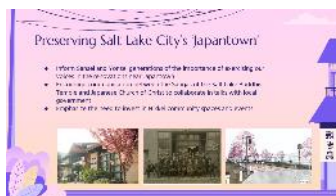
◆ 個人的展望：

自分は博士課程で言語人類学の研究をしており、異なる表現を持つ沖縄の方言に強い関心を持ちました。このことについてさらに研究してみたいと思います。

【アクション・プラン】

- ・ 今回沖縄について、また沖縄と米国の関係について知ることができたため、セミナーを開催し、自分が受け持つ学生たちに伝えたいと思います。
- ・ 今回学んだことを自分のアート作品に取り入れて、展示会などで多くの人に自分の経験やこのプログラムの素晴らしさを伝えたいと思います。

グループ2（訪問地：東京都、神奈川県、広島県）全2グループ発表



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び：

海に近い場所ならではの生活や食を体験できました。また、画家としても活動されているホストファミリーが描いた、戦争の悲惨さを伝える絵を通じて、平和の大切さも学ぶことができました。

◆ 個人的展望：

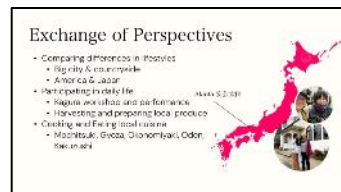
将来日本で働くために日本の大学に留学したり、福山城再建の例に倣って、自分たちが住む地域の「日本人街」を昔の姿に戻すなど、日系人社会に貢献したいと思います。

【アクション・プラン】

日系人市民同盟グループのメンバー全員が帰国後すぐに NAPA（International Network of Asian Public Administrators）でのリーダー育成、優秀な人材の提供、活動の強化などの面で協力を始めます。また、日系米国人市民同盟、日系学生連盟そして仏教寺院などを通じて日系の学生や社会人たちにカケハシ・

プロジェクトや日本についての情報を発信していきたいと思います。

グループ3（訪問地：東京都、神奈川県、広島県）全2グループ発表



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び：

日本国内であっても都市部と地方に違いがありや、米国と日本の生活習慣の違いも感じました。安芸太田町では、神楽ワークショップに参加し、神楽の踊りを学びました。地場産の収穫物で、餅つき、ギョウザ、お好み焼き、おでん、角寿司等、地元の郷土料理を作り、日本の食文化に触れました。

◆ 個人的展望：

私たちは、多様な視点を探求し、有意義な経験をすることで、文化的理解を深めることを目指しています。その結果、キャリア、学業、私生活のいずれにおいても、私たちが得た洞察を活用することで、将来の活動をより豊かなものにしたいと考えています。

【アクション・プラン】

4つの方法でカケハシ・プロジェクトでの学びをシェアしていきます。

- ・ LinkedIn に投稿し、仕事及び個人的なネットワークで共有します。
- ・ 南カリフォルニアで最も有名な日系米国人向け新聞、Rafu 新報に記事を掲載します。
- ・ UNC-CH 東アジア研究科と協力し、ノースカロライナ大学にて日本文化に関する情報を共有します。
- ・ 地元の日系米国人や NSU（日系学生連盟）で今回の経験を共有し、多文化間の議論を促進すること、メンバーが自分たちのルーツを探求することに尽力します。働きかけます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）